



IT点呼と人材派遣の 活用で 点呼業務を効率化

複数営業所・早出遅出ありの事業形態では
IT点呼で点呼業務の分業化による効率化に
より運行管理者の負担軽減、
業務の質の向上が可能

CASE 30

IT点呼による点呼業務効率化

事例企業は東日本一円という広域への特殊車両による原材料輸送（片道）を行っており、荷主工場に隣接する4営業所それぞれにおいて10台前後の点呼を行っていた。労働時間の管理も重要になってきており、早朝・休日出発の頻度が高く、運行管理者の負担がかかっていた。IT点呼の導入と派遣人材によって、点呼業務を合理化し、人員削減と運行管理者の残業削減を図ることができた。IT点呼の実施条件に合致することで事業効率化を図ることができる。



課題・ニーズ

■ **365日営業で早出が多く、点呼のための人件費負担が大きい。**

遠隔地の需要先に早朝の納品が求められており、早出の点呼業務が必須であり、点呼業務の負担（運行管理者及び補助者）が大きい。現在は早朝時間についてはシルバー人材センターから派遣を受け入れている。0時過ぎから最初の出発がある。

■ **営業所の人数が少ないため、点呼を確実に実施する体制を作ることが難しい。**

各営業所は10台程度のトラックを保有し、運行管理者がそれぞれ1名しかいないため、急な病欠などが発生した場合、運行管理者の長時間勤務も発生する。

■ **1営業所1社の大手荷主であり、点呼の確実な実施が求められる。**

当社としても荷主としてもコンプライアンスに関しては厳しく、退職や病欠などでも点呼の確実な実施に対応できるように体制を取っていかなければならない。

会社 情報

営業所数：4、車両台数：40台

特殊車両（トレーラー含む）：40台、他

輸送品目：セメント、小麦粉、他



導入効果

■ **中核営業所を決め、他3ヶ所はすべてI T点呼実施体制ができた。**

I T点呼を実施する中核営業所を1ヶ所決定し、他の3ヶ所の乗務前点呼をI T点呼にする体制を整えることができた。23：30から翌朝7：30までの時間を乗務前点呼を行う運行管理補助者のパート社員3名がI T点呼を活用して365日実施しており、乗務後点呼はすべて各営業所の運行管理者が行っている。

■ **3営業所の早朝点呼のための運行管理者は不要となった。**

中核営業所のみで点呼ができるため、他の3営業所の早朝点呼を行う要員配置は不要となり、直接的な人件費削減ができた。日帰りによる運行、特殊車での片道運行、特定荷主の製品輸送、小規模営業所の多地点点在という当社独自の条件ではあるものの、I T点呼で直接的なコスト削減ができた。

■ **点呼の専門化によって点呼の質が向上した。**

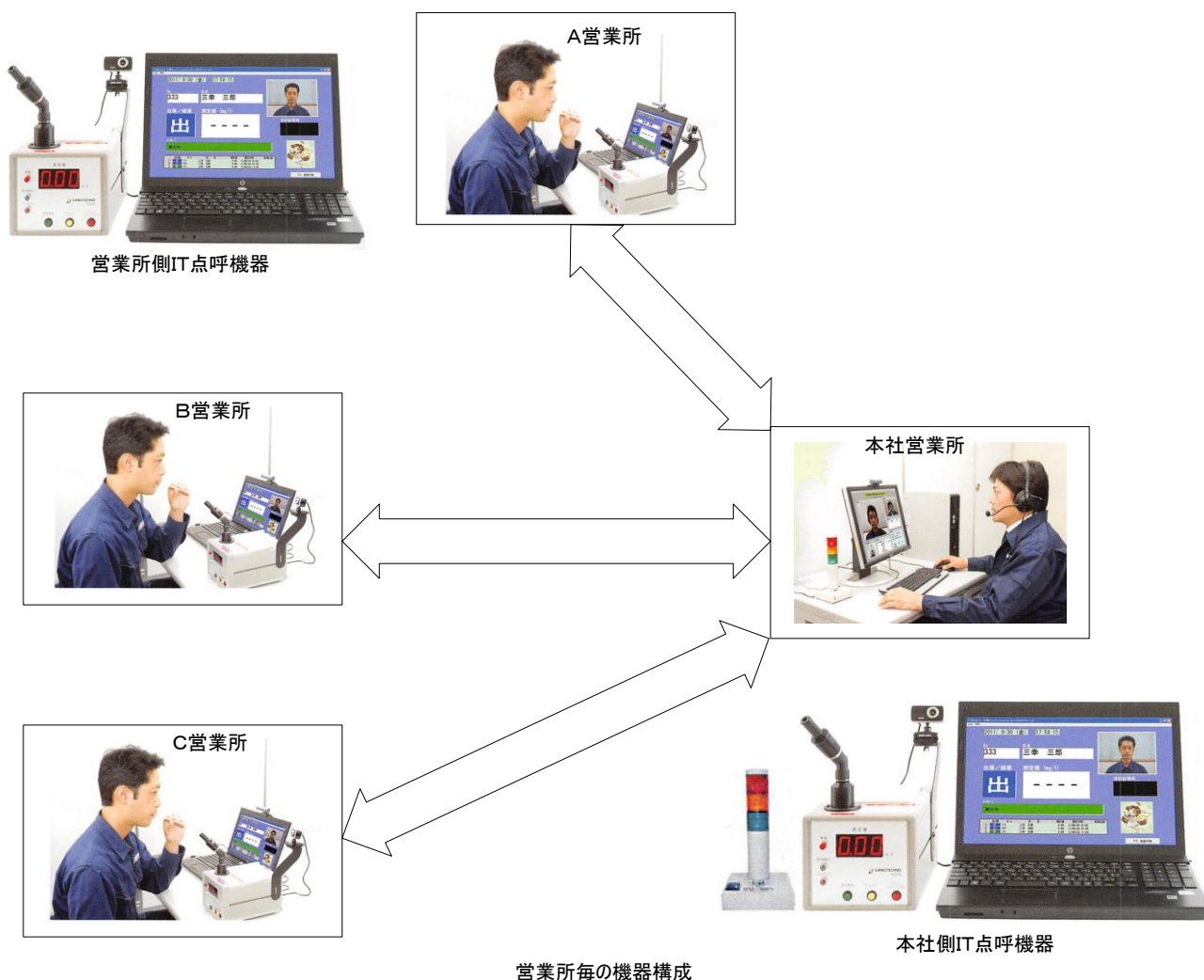
シルバー人材センターに登録している派遣社員ではあるものの、企業でのマネジメント経験のある方を採用でき、深夜早朝のドライバーへの出発1時間前の電話連絡、点呼、点呼結果の記録、異常時の所長への連絡等についてのみに特化した業務に対応しているため、専門化が図られ点呼業務の質はむしろ向上した。

システム概要

事例企業では、ローリーによる日帰り運行を365日行い、出発時間が0時から早朝となる運行が中心なので、早朝点呼を本社営業所で集中して実施する方針を立て、IT点呼の運用設計を行った。

■ 本社営業所から3つの営業所に対するIT点呼を実施するシステム

アルコールチェッカー、パトライト、パソコン、カメラ、マイク、スピーカー、プリンタなどであるが、本社にはIT点呼の呼び出し用及びアルコール反応時の通知のためのパトライトを設置し、アラームライトで知らせてくれる装置を追加している。



■ インターネット設備

IT点呼を行うためには、実施営業所がインターネットに接続する必要があるため、各営業所がインターネットに接続できる設備を入れた。(インターネット契約、インターネット用モデム、インターネット用ルーター、LANケーブルなど)

■ 乗務前点呼

乗務前点呼については、1名の補助者が本社10名の対面点呼を行い、3営業所の各10名、合計30名のIT点呼を行っている。365日運行のため、補助者は3名で交代勤務を行っている。補助者は65才以上の高齢者で、シルバー人材センターから派遣を受けている。3名は面接によって適性を見極め選抜され、運行管理者基礎講習を受講し、補助者に選任されている。

■ 乗務後点呼

乗務後点呼については、すべての営業所で運行管理者が対面で行っている。

■ 補助者点呼の割合

乗務前点呼のみ補助者点呼を行うので50%である。

■ IT点呼の実施時間

IT点呼は、早朝に限っているので、緊急を除いては0時から7時半までの7.5時間となっている。



コスト・期間

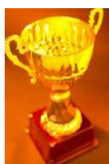
■ コスト

項目	費用
I. パソコン関係 パソコン 4 台、カメラ 4 台、マイク 4 台、 スピーカー4 台、インターネット接続用機器	80 万円
II. IT点呼用機器・ソフトウェア・運用指導 アルコール検知器 4 台、パトライト 1 台 IT点呼用管理ソフトウェア1式、セットアップ料 IT点呼業務指導料	180 万円
III. その他の費用 アルコール検知器保守料	年額 6.4 万円
合 計(導入一時費用のみ)	260 万円

※インターネット接続のための通信費用は含まれず。

■ 導入期間

導入フェーズ	期間
I. 準備段階 開発会社との打合せ、相談、見積り	1ヶ月
II. 導入段階 インターネット設備、パソコン及びIT点呼機器、 ソフトウェア購入、マスタ設定と入力トレーニング	2ヶ月
III. 稼働段階 データ入力、業務運用のルール決め、 IT点呼実施トレーニング	2ヶ月
合 計	5ヶ月



成功要因

事例企業の運行形態は、荷主であるメーカーの工場に隣接した場所から、ローリーで需要先に365日運搬する安定した定期特殊車配送であるため、日々の確実な運行指示、点検・点呼などを行うことで、需要先の原材料を確実・安全に輸送することが最優先の要件となっている。

■ 人件費削減をしっかりと計画したこと

安全の推進、運行管理者の負担軽減は重要なテーマではあるが、営業所の数、IT点呼の実施条件、補助者点呼の条件など、コンプライアンスと安全を確保しつつ、人件費削減という目的を明確にした。経済的なメリットがあつての投資であることは、重要な要素である。

■ シルバー人材の確保

事例企業では、補助者候補の採用について、シルバー人材センターを活用した。事例企業は大手物流企業の子会社であり、荷主も国内大手企業ということもあり、コンプライアンスや運輸安全マネジメントには最も力を入れている。シルバー人材の採用に当たっては、過去の経歴、仕事に対する考え方、健康、学習意欲など、厳しい基準に照らした採用であったことは、重要な成功要因であった。

■ 補助者によるIT点呼実施のための綿密な準備

人件費の削減以外の重要な目的は、安全の確保と運行管理者の負担減である。そのため、派遣社員である補助者が、問題なく点呼を行うことができるように、綿密な準備を行った。日々の配送計画や車両、荷物、納品先の情報など、運行に関する情報は運行管理者が持つ情報に極力近づけるようにした。また、運転者一人一人の情報、これまでの運行実績、性格、健康、飲酒などの嗜好について、十分

な情報を準備した。

■ 運行管理者との連携

深夜早朝の点呼において不測の事態が発生したら、どのような対処を行うのか、すぐに運行管理者がサポートできるのかなど、補助者と運行管理者の連携を強化し、問題発生時の対応を十分に準備できた。

■ 高齢者の勤務負担軽減

事例企業では70歳過ぎの補助者も採用している。365日の点呼を確実に実施するため、3名を採用して365日2時半から7時半までの8時間勤務をローテーション配置している。多くて週3日の勤務であることから、1人の負担を軽減していることも、安定した点呼体制の維持に寄与している。



失敗のリスク

■ 補助者適格者の採用と十分な補助者教育

未経験のシルバー人材によって日々の運行指示を行うことは、会社の状況や運行に関する様々な経験の不足から、不十分、不適格のリスクがある。事例企業では、十分な時間をかけて適性ある人材を確保し、確実な指導を行っている。日々の運行が定期的であり同形態の輸送である場合は良いが、日々の運行が不定期、緊急、臨時であるようなケースでは難しいと思われる。

■ 高齢者の勤務

事例企業では70歳過ぎの人材も採用している。コストダウン目的での高齢者採用は、安定運行を妨げるリスクともなるため、十分な検討が必要である。

■ 外部人材への依存

自社社員の定年後採用とは異なり、労働市場によって良い人材が常に確保できるとは限らない。事例企業は都市部での勤務であるため、人材も比較的確保しやすい場所だが、そのような人材確保ができない地域では勤務者が退職した場合に継続が困難になるケースも考えられる。